

前田雅子（2011年度日本英語学会新人賞受賞）

このたびは稚論文 “The Criterial Freezing Effect and Split A'-Movement”に対し、2011年度日本英語学会新人賞をいただき、誠にありがとうございます。

このような荣誉ある賞を受賞できたのは、学部時代からご指導して下さった九州大学の先生方、先輩方のおかげです。心より感謝申し上げます。また、論文執筆にあたり、貴重なコメントやご指摘を下された選考委員の先生方にも心よりお礼申し上げます。

今回受賞した論文は、複数のA'要素がphase edgeへ同時に並行移動するという仮定(Chomsky 2008)と、階層化されたCP構造内での派生的なFeature-based Relativized Minimality(cf. Rizzi 1997, 2006)を仮定することで、wh句や焦点要素などのA'要素間の介在効果を統語分析することを試みたものです。また、there構文におけるwh移動の可能性がbe動詞、非対格動詞、非能格動詞などの動詞の種類により異なることを示し、その差異は階層化されたvP構造への焦点化移動の有無により説明できると論じました。

この論文は、修士論文の内容を発展させたものであり、その内容は学部・修士で勉強した様々なトピックをまとめたものになっています。この学部・修士の10年間、私は統語論に魅了されつづけてきましたが、それは、常に英語学のおもしろさを教えてくださった先生方・先輩方がいらっしゃったおかげです。西岡宣明教授、稲田俊明教授には、授業や面談において、先行研究を丁寧に読み、その示唆的な点・問題点を読み解く方法や、多くの先行研究を読みこなすための勉強姿勢、言語事実の重要性など、多くのことを教えていただきました。英語学・英文学研究室の先輩方は、勉強会を企画してくださり、些細な質問にも真摯に答えてくださいました。また、集中講義や学会発表を通して、多くの先生方に豊富な知識・ご助言を賜りました。今回、この論文が評価していただけたのは、このような先生方・先輩方の温かいご指導の結実に他なりません。今回の受賞を励みとし、それに恥じぬようさらに努力していく所存ですので、今後とも尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。